

難所施工時の 注意ポイント

Q&A

Vol.2

この連載では難所施工時における注意点をQ&A方式で紹介していきます。前回に続いて今回も各地の様々な墓地で施工業務を請け負っている(株)美匠の中西あざみ社長にお話をうかがいました。

Q1

敷地や通路が狭い現場で墓石の解体・撤去工事を行なう際、作業時のコツや注意点、石をどのようにして運ぶのが良いかを教えてください。

現場で石をできるだけ小割し、運搬しやすいサイズにすることが重要です。小さくした石材であれば、狭い空間でも運搬の負担を軽減できます。

狭い敷地での撤去作業や細い通路を通る際には、他のお墓の巻石や外柵に接触して傷を付けないよう、毛布やプラスチック板を使用して隣接するお墓や通路を完全に養生すること。芝生墓地では、クローラの跡を付けないように注意しなければなりません。ケースもあり、そ



他のお墓の巻石や外柵に接触して傷を付けないよう、毛布やプラスチック板を使用して養生していきます。

の場合は、養生はさらに念入りに行ない、できる限り小型の運搬機を使用します。

運搬機が使用できない場所では、一輪車(豆タンク)を使用するケースもあります。この場合も、石材をできる限り小さく割ることがポイントとなります。場合によっては、



出来る限り石を小さく割り、しっかりと養生をした上で運搬することが大切です。

石を人力で運ぶ必要がありますが、このような現場では若いスタッフの力が頼りになります。数十メートルもの距離を運搬することもあるため、効率的に作業を進める工夫が求められます。

Q2

石材店が難所現場で作業する場合や、墓石の解体・撤去を依頼された施主様への対応時に注意すべき点について教えてください。

平らな道だからといって運搬機に石を多めに積むとハンドルが効きにくくなったり、山道では運搬機が横転してしまう危険性があります。また、クランプを使用する際には石材の重量・大きさに



しっかりと養生した上で作業を進めています。

合った適切なサイズのものを選ぶこと、ミニクレーンでの作業では制限重量を厳守することが大切です。「これぐらいなら大丈夫」といった過信は禁物です。

また、機械の定期的なメンテナンスや、現場での合図の声出しを徹底することも欠かせません。

加えて、施主様の情報や見積もり段階での資料を、工事までにスタッフ間で共有し、全員が作業内容を正確に把握することも、良い仕事をするために欠かせない重要なポイントだと思えます。

施主様との対応においては、特にお墓を間違えることは絶対にあつてはなりません。そのためにも、高齢者やインターネット・メール等が利用できない方へは、航空写真と返信用封筒を郵送でお送りし、墓所に印を付けて返送していただくといった方法も効果的だと思います。



【回答者】

中西あざみさん…墓石の回収・収集運搬などで高い実績を持つ(株)美匠の代表取締役。同社では墓石解体工事の代理施工も請け負っており、「解体・撤去→回収→運搬→リサイクル処理」に至る全ての工程で法令遵守を徹底。若手の人材育成にも力を注いでいる。

◆(株)美匠 お客様サポートセンター
奈良県橿原市小房町9-24
TEL0120-14-5139

また、墓石の解体・撤去作業では、基礎部分から予想以上にコンクリートや鉄筋が出てくるケースも少なくありません。このような場合、事前に情報があれば見積もり時に反映できますが、情報がない場合が多いのが実情です。

当社では、墓石の解体・撤去作業の内容をすべてデータで管理しています。各寺院様や、それぞれの地域ごとの慣習もあり、このデータが、同じ墓地内で再び作業を行う際に役立つことも多くあります。